

せたなの観光を

チエンジン!!



『せたな町』は「海」「山」「川」何でもある自然豊かな町。だからこそ、美味しい食材もたくさんそろっています。そんな『せたな町』に来てくれた、これから行ってみたいと思った、興味を持ってくれた、そんなあなたに感謝したい、そんなあなたに育てられ『せたな町』は大きくなっていきます。まだまだ、せたな町はおもてなしの気持ち、あなたを満足させるものが足りないかもしれない。だけど、今はまだあなたが求めるものを今みんなですこずつ揃えているところです。そんな進化途中の『せたな町』を私たちと一緒に育てていきませんか？みんなの力で今『せたな町』は“CHANGE”します。

『チエンジン』公開録音にて

CHANGE! する

観光は、単に町外から来る方だけにあるものではありません。食を例にしますと、「新鮮な食材の提供」があって料理が生まれます。これを皆さんが食べて「美味しい」を感じていただけるものがあれば、必ずほかの人にもこのことを話し、すすめるはずです。

皆さんのさまざまな情報発信や取り組みが、たとえ小さなものであっても、やがてそれが大きな動きに変わります。変わらなければならないのが今だと考えます。今年の観光ポスターは、この思いから作成したものですので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

■当町観光の現状

せたな町は、豊かな自然とともに、農水産物・加工品・歴史遺産・伝統芸能など質の高い観光資源に恵まれています。現状は観光PRが主であり、受け身の観光に依存していたと考えます。

当町の観光入込総数は、平成16年度が31万人でしたが、19年度においては27万人に落ち込んでいます。

■滞在型観光への転換

1年を通じて観光客の入込みを平均化させ、通過型観光から滞在型観光への転換が必要であることから、新たな観光資源を再発掘し、これらを有効に活かした観光の推進が求められます。

■観光と地域との関わり

地域産業を観光に取り入れることにより、地場産品の消費にも結びつけることが可能で、地産地消の推進が期待できます。

■観光協会との連携

町では、国の交付金事業を活用して、観光資源の発掘・商品開発・売り込み・収益事業などの可能性を調査・研究事業を観光協会に委託する運びとなりました。

今後は、観光協会の収益事業者としての自主独立が期待されます。

■観光行政

新しい観光への先導役として、町においてもさまざまな取り組みが計画されていますので、主なものをご紹介します。

【地産地消料理教室】

地元農水産物を活用した料理教室を開催し、地場産品のPRと消費拡大を推進します。

【地産地消食材活用交流会】

地元農水産物・加工品を地元飲食店・宿泊業者などに紹介し、情報交換と交流の機会を提供し、地場産品のPRと利用の拡大を推進します。



●撮影協力/小倉沢昇司さん(ポーズ指導) ●モデル協力/中村美津子さん(ポスターの中にいます) ●撮影/2009.05.17 TNHKとことん!ふるさとステ

せたなに

その行き先をCHA

【せたなコネクションリスト 作成事業】

地元出身者等の飲食・宿泊業や、当町の農水産物を食材として活用しているお店などのリストを作成します。登録後は、地場産品や観光などに関する情報を発信し、地場産品のPRと消費拡大をめざします。また、登録されたお店を皆さんに紹介し、地元食材などを通じた

消費交流を推進します。

【ふれあい市場の新設】

老朽化や駐車場不足であった当施設を温泉ホテルきたひやまの敷地内に新設し、地産農水産物や加工品の販売を通じた消費者との交流により地産地消を推進します。(オープンは、九月の予定)

【飲食店等イメージアップ支援事業】

意欲をもって経営改善に取り組む事業者をサポートします。支援内容は、メニューやポップなどの作成支援や、地元食材などの情報提供とアドバイスです。

せたな観光協会事務局長 山田孝男さんに「せたな」の観光についてお話を伺いました。山田さんは、旧瀬棚町時代から事務局長を務められ、合併後も常に新しい情報発信を考えています。



せたな観光協会事務局長 山田孝男さん

せたなには「自然のきれいさ」「美味しい食べ物」などたくさん良いところがあります。

それが上手く発信できていないように思うんです。その発信のしかたとして「せたな出身者」が都会へ出ていくわけですから、そういう方からの良い情報発信も必要になってくるのかなと思います。

知らない人を呼び込むという事は、大変難しいことです。「せたな町」を故郷にしている人たちが、年に一度でも帰りたくなるような「ふるさとづくり」が大事です。ね。帰りたいたいと思う町を作るのが、「いい町」と観光

客にも伝わっていくことになり繋がっていきます。

町花が「スイセン」になりましたが、北檜山区だけでなくスイセンを公共施設や花壇に植えて、「花いっぱい」運動などでもそうですが、花を大事にしても育てていく。そしてそういう花が観光客の心を和ませていく。きれいな花が咲き誇る町で観光客も気持ちよく滞在してくれてほしい。その「おもてなし」の観光の一つになっていきます。

玉川公園などは歴史もあるし充分な観光資源となりますので、町民の皆さんを巻き込んで盛り上げていきます。

いと思いい、「町花スイセン普及運動」を今年から実施してみました。

今までそれぞれの町として動いていた旧3町が、一つになり財産が増えました。これからはその「三つの財産」を上手くまとめていけば、それらは3倍にも5倍にも力となっていくと思えます。

これからも、町民の皆さんと一緒に「せたな」を盛り上げて、「おもてなし」の観光を定着させ、「いい町だなあ」と誰もが思ってくれる町づくりに目指していきます。